

この春就職した人から

大学に職を得て

赤石 憲昭（日本福祉大学）

一橋には、修士から数えて11年ちょっと在籍したことになります。去年6月になんとか博士論文を提出でき、今年の4月、ようやく日本福祉大学の子ども発達学部に就職することができました。キャンパスは、愛知県知多半島南方の美浜というところにあります。一時間に三本程度発着の駅を降り、田んぼの間を抜け、「福祉」という言葉を忘れてしまいそうなほど長い坂を上ったところに建物があり、研究室からはかすかに海も見えます。

子ども発達学部は、保育士や小学校教諭の養成をするところで、小学校や幼稚園に実習に行っている学生の訪問巡回といったこともさっそく経験することになりましたが、授業科目では、「哲学概論」、「哲学（現代人間論）」、「現代基礎教養」、「ジェンダー論」などこれまでに非常勤で担当していた科目と重なっているのので、自分の興味・関心やこれまでの経験を活かすことができ充実しています。ただ、長年、一橋の大学院生活が長かったのので、1年生のゼミで近くの海に行ったり、ハロウィン・パーティーをしたりと勉強以外のことにも気を回さなければならなかったり、2年生の文献講読のゼミで担当者が平気で無断欠席をしたり、3年生のゼミでは受講生に合わせて保育や小学校教育について考えたりしなければならぬなど、戸惑うことも多々あります。

日本福祉大学には、学部は違いますが片山さんがいらっしゃるので、学校のことはもちろんのこと、生活全般に関してもいろいろとお世話になっています。こちらに来て哲学書を読むことはもちろんのこと、それを原典で読むという余裕はなかなか取れなかったのですが、最近、片山さんと週1回、ヘーゲルの精神哲学についての原書講読なども始めました。ヘーゲル研究者が複数在籍する環境というのは、考えてみればかなり貴重だと思いますので、片山さんとも協力しながら、ヘーゲル研究も進めていこうと思います。

私はもともと人間把握に興味があり、それをヘーゲルの論理学や法哲学に基づいて、近年では、ハーバースやホネットの批判的社会理論も援用しながら考えてきました。そのため、もともと純粹哲学というよりも社会哲学的志向が強かったのですが、今回、子ども発達学部という具体的に人間について研究する学部になつたので、具体的な議論も様々に学びながら、その一方で、理論的な探究もしっかり行っていければと考えています。現在は、知多半島にこもることが多くなりましたが、全国唯研等、学会などでお目にかかる機会も多々あると思います。今後ともご指導よろしくお願いいたします。